

導する。

中学年からは、法則や原理的なものへの関心を高め、見通しを持ち、筋道を立てて考えるよう指導する。

高学年では、学習した事項をまとめたり、見方を変えるなど、問題解決能力を一層伸ばすように指導する。

三 基礎的な知識の習得や技能の習熟と数学的な考え方の育成に努める

(一) 基礎的な知識の習得や技能の習熟に当たっては、その過程を大切にするとともに繰り返し指導することにより定着を図る。

(二) 既存の経験や知識、技能を、新しい問題解決の場面に活用したり、発展させたりできるように、関連的な取り扱いに努める。

(三) 集合及び関数的な見方、考え方、操作活動については、有効適切な場において積極的に取り入れ、全学年を通して継続的、発展的に行うようにする。

四 学習意欲を高め、学習活動が一層効果的に展開できるように指導法の改善に努める

(一) 児童一人一人の学習のねらいを明確にし、児童自身が学習の成果を知ることにより、意欲的、積極的に取り組むことができるよう工夫する。

(二) 個人思考と集団思考の場の設定を配慮しながら、児童が自力で問題を解決する喜びを味わうことができるよう工夫する。

(三) 教育機器の活用、資料提示の仕方、学習形態等を工夫し、多様な授業の展開ができるよう努める。

(四) 児童一人一人を生かす評価の在り方を工夫する。

理科

身近な自然の事物・現象に直接働きかける活動を通して、自然を調べる能力と態度を育てるとともに、自然の事物・現象についての理解を図り、自然を愛する豊かな心情を培うようにするため、次の点に努力する。

一 児童、学校及び地域の実態に即し身近な自然を生かした指導計画に改善する

(一) 基礎的・基本的事項を系統的にとらえ、児童、学校及び地域の実態に即して指導内容の重点化と教材の精選を図り、ゆとりと充実のある学習活動が展開できる指導計画にする。

(二) 身近な自然の事物・現象に直接触れる活動を重視し、観察、実験を適切に位置づけた指導計画にする。

(三) 低学年においては、合科的な指導

を積極的に取り入れた指導計画にする。

二 児童が自ら考え、自然を調べる能力と態度を育てる指導法の研究に努める

(一) 自然の事物・現象について、自ら問題を見出し、意欲的に解決に取り組むための動機づけの工夫をする。

(二) 児童一人一人が明確に課題をとらえ、主体的な探究活動を通して課題の追究が行われるよう工夫する。

(三) 学習のねらいや内容及び教科の性格、児童の経験や能力等を考慮し、多様な学習方法、形態がとれるよう工夫する。

三 評価についての実践研究を深め、指導計画や指導法の改善に努める

(一) 形成的評価や自己評価を適切に行い、児童一人一人に対する確かな指導が進められるようにする。

(二) 自然を調べる能力や態度の評価方法について、実践的研究を更に深め、適正な評価に努める。

四 指導の効果を高めるため、学習環境及び教材・教具の整備、活用に努める

(一) 身近な素材の活用を図るとともに

地域の自然環境を生かした野外学習が効果的に行われるようにする。

(二) 理科的環境構成を工夫し、学習に対する興味、関心を高める。

(三) 生物の飼育・栽培を計画的に行い教材として効果的に活用する。

五 事故防止に努め、観察・実験が安全に行われるようにする

(一) 指導の要点を的確におさえ、観察実験の技能の習熟に努めるとともに、事故防止には万全を期する。

(二) 毒物・劇物・危険物(発火性・引火性薬品)については、適切な保管管理に努める。

音楽

音楽を愛好する心情の育成を、指導理念として、児童の音楽的感性を大切にしながら個に応じた指導の展開に努め、音楽的諸能力を確実に身につけられるようにするため、次の点に努力する。

一 音楽的感性を育てる指導が効果的に展開されるよう、指導計画を改善充実する

(一) 表現や鑑賞の活動を通して、児童が生き生きと学習に取り組む、基礎